



昭栄産業

「新世紀塾」を開講

昭栄産業（新潟市中央区、平澤利明社長）が特に力を入れるのが、人材育成だ。「社員教育に掛ける時間も費用も、全く惜しくない」と平澤社長は言い切る。

特徴的な取り組みの一つが「昭栄新世紀塾」と銘打った社内研修。平澤社長が師と仰ぐ地元新潟の先輩経営者から学んだ知恵を社員と共有し、自らが何をすべきか主体的に考える力を養成する。例えば「和して同ぜず」という論語に由来する言葉があるが、和することと同ずることはどのように違うのかを考えさせ、解説する。こうした研修を年間12回ほど開催する。

「この研修が若い人に受け入れられるのか不安もあったが、『学んだ言葉を座右の銘にしたい』と言ってくれる社員もいた」と平澤社長は顔をほころばせる。「最近是指示しなくても、自主的に社員が動いてくれる。『俺がやることは何かないの?』とってしまうほどだが、こんなにうれしいことはない」と笑う。

本業の深掘り

その他、中小企業大学校を活用した幹部教育や、人間の幅を広げるために海外研修旅行なども定期的に行う。「中小企業にダイヤの原石はなかなか入社してこないが、佐渡島で取れる赤玉石のように磨けば光るものもある。大切なのは心を込めてしっかり磨くこと」（平澤社長）。

いくら社員教育を施しても人材の定着率が悪ければ意味がない。その点同社は高い定着率を誇る。「昭栄産業の存在意義を社員一人ひとりがしっかり理解しており、BS（貸借対照表）やPL（損益計算書）などの財務諸表もガラス張りです。将来も安心して働ける環境が整っている。そして比較的待遇も良い」と話す。

昨今、社会的な関心を集める「働き方改革」もいち早く実施した。営業職の時間外手当を従来の固定残業制から、すべてタイムカード管理に変更。同時に総残業時間の抑制にも取り組んだ。「こうした一連の取り組みは商社としての本業を深掘りするためのもの。情報力などを高め『昭栄産業と付き合っていれば常に新しい情報が入ってくる』と思ってもらえれば」と平澤社長は語る。